

新宿区教育委員会会議録

令和2年第8回臨時会

令和2年7月27日

新宿区教育委員会

令和2年第8回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和2年7月27日(月)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 2時55分

場 所 新宿区役所6階第2委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	酒 井 敏 男	教育長職務代理者	今 野 雅 裕
委 員	古 笛 恵 子	委 員	星 野 洋
委 員	山 下 浩 一 郎	委 員	羽 原 清 雅

説明のため出席した者の職氏名

次 長	村 上 道 明	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	荒 井 亮 宏	教科用図書 審議委員会委員	坂 元 竜 二
教科用図書 審議委員会委員	池 田 知		

書記

教育調整課 主任	平 明 生	教育調整課 係	国 分 克 行
-------------	-------	------------	---------

議事日程

協 議

- 1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書採択について（教育指導課長）

---

◎ 開 会

○教育長 では、ただいまから令和2年新宿区教育委員会第8回臨時会を開会いたします。

本日の会議には全員が出席しておりますので、定足数を満たしています。

本日の会議録の署名者は、今野委員にお願いいたします。

○今野委員 はい。

---

◎ 協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、議事はございません。

前回に引き続き、「協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

本日も、教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、令和3年度新宿区立中学校教科用図書審議委員会委員に出席していただいています。

本日は、これまでの協議で1種への絞り込みができていない、数学、理科、道徳、書写、社会（地理的分野）、地図について改めて協議をし、1種への絞り込みを行いたいと思います。

初めに、確認をさせていただきます。

これまでの協議で採択の対象となる教科用図書の絞り込みが2種または3種となっている種目は、数学については、東書と学図発行の教科用図書、理科については、東書と大日本発行の教科用図書、道徳については、教出、日文、学研発行の教科用図書、書写については、教出と光村発行の教科用図書、社会（地理的分野）については、東書と帝国発行の教科用図書、地図については、東書と帝国発行の教科用図書となっております。

再協議は、数学、理科、道徳、書写、社会（地理的分野）、地図の順にしたいと思います  
が、御異議ございませんでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 それでは、数学について、改めて御意見、御質問がある方は、お願いいたします。

いかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長 御意見、御質問がなければ、これまでの協議を踏まえて、採択に最もふさわしいと

考える教科用図書について、改めて各委員の御意見を確認したいと思います。

星野委員、いかがでしょうか。

○星野委員 私は、前回同様、東書を推したいと思います。

理由としては、図の配置が大変適切であることと、各レベルに合ったいろいろな問題があって解きやすいと思いましたが、東書にいたしました。

○教育長 ありがとうございます。

続いて古笛委員、お願いします。

○古笛委員 私も前回同様、東京書籍でよろしいかと思います。

調査委員会、学校調査、審議委員会、全て同じ御意見ですし、実際に拝見させていただいても使いやすいかなということです。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私も、東書でございます。

前回は申しましたけれども、特に東書の教科書の場合には、子どもたちの興味を引き立てるようにということで、導入その他に工夫があって、子どもたちの興味関心に基づいた学習を自然に行いやすいのではないかと考えております。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

山下委員、お願いします。

○山下委員 私は、前は学校図書を推していました。理由は、デザインとして非常にこちらのほうが落ち着いた感じ、調査報告にもありますけれども、逆に刺激が少ない分、子どもたちに分かりやすいかなという判断にしておりましたが、いろいろ調査報告等を踏まえまして、東京書籍でよろしいかと思います。

1点だけ、この場で確認なんですけれども、学校図書の後ろには必ずプログラミング体験ということで、数学のプログラミングについて書かれているんですけども、数学の授業でも、今後、こういうことを扱っていくのでしょうか。

○坂元教科用図書審議委員会委員 御質問のあったプログラミングにつきましても、今回、2社ほどが取り上げておまして、そのスクラッチのソフトを使ってグラフを描く方法などは行うことになっております。

○山下委員 わかりました。一応、確認でした。

○教育長 ありがとうございます。

では、羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 東書でいいと思います。

やはり教科書として親しみやすいということです。導入部に割に親しめる部分があって、内容的にも同様です。あまり僕は数学が好きではないが、見ていて楽しそうな印象があるということも大事だと思っています。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

私も東書でよろしいと思っています。

それでは、他に御意見がなければ、協議の内容を確認したいと思います。

数学については、これまでの協議・内容を踏まえた上で、皆様の総意として、東書発行の教科用図書を採択の対象とする教科用図書とすることによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。

では、東京書籍発行の教科用図書ということで、絞り込みをさせていただきました。

次に、理科について、改めて御意見、御質問がある方はお願いいたします。

いかがでしょうか。

○山下委員 東京書籍の教科書は判型がちょっと特殊だなと思っていまして、これは例えば子どもたちのかばんに入らないとか、授業中何か問題があるということは特にないでしょうか。

○坂元教科用図書審議委員会委員 この教科書の大きさについては、理科のときには審議委員会の中では、特に話題にはなりませんでした。やはり中身の実験観察の充実といったところでの審議が行われるのが中心でございました。

以上です。

○教育長 ほかに御質問等ございますでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 他に御意見、御質問がなければ、これまでの協議を踏まえて、採択に最もふさわしい教科書について、改めて各委員の御意見を確認したいと思います。

それでは、古笛委員からお願いできますでしょうか。

○古笛委員 理科に関しては大変悩んだんですけども、新宿区の子どもたちは理科がやっぱり苦手だということで、投げかけ型の東京書籍よりは、前回と同様に最後まで丁寧に解説し

ていただいている大日本図書のほうがいいのではないかということになりました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

続いて今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私は、前回、東京書籍を推しておりました。理由としましては、教科書の内容が子どもの興味関心を上手に引き出すような導入が巧みで、自然に学習できるように工夫されている。それから、教科書の構成自体が課題発見、実験分析という探求的な姿勢を明確にしているということで、自主的・自律的な学習に一番つながるのではないかという判断をしました。

調査委員会あるいは学校の評価でも非常に高いということで、審議委員会で東書ということだったものですから、そのように考えました。今でも教科書としては、とてもよくできていて、一番いいと思っているんですけども、前回の議論のときに、新宿区の子どもたちの、特に学力テストでの成績が必ずしも芳しくないということがありました。それを前提に、大日本のほうが基礎・基本に手厚いということで、新宿区の子どもたちの状況を考えると、むしろ大日本のほうがいいのではないかと思いました。調査委員会と学校の評価でもそれほど大きく落ちているということではないことから、大日本を取ることに異存はないという考えに至っております。

新宿区の中学生、理科の成績がなかなか以前から弱いということで、大きな課題でありました。全体的に成績があまりよくないのは、高得点層がほかの科目に比べてもかなり減る。それから低得点層のほうがやはり高くなるという構造でそうなるんですけども、それと併せて、教育委員会から示されているデータでは、自然事象に対する興味関心が全国平均よりもかなり低いということが出ております。子どもたちの最終的に学力を高めていくということには、やはり自然事象での興味関心、意欲というものを上げていかないといけないと思います。

そういうことで、どこの教科書を取ってもそうですけれども、子どもたちの意欲を高めるような指導を、ぜひ先生方にはお願いしたいと思います。

したがって、前回、東書ということでしたけれども、大日本でも可ということで、少し意見を変えたということでございます。

○教育長 ありがとうございます。

では、続いて山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私は前回、東京書籍を選んでいました。実は私は理科が大好きで、小学生の頃から理科の実験器具が欲しくて、お小遣いを貯めていろいろ買い込んで、実験を自分でしたぐらいなので、そういう立場から見ると、東京書籍は非常に面白いと思いました。理科好きな人は、多分こちらのほうが好きなのではないかなと、自分と照らし合わせて思いました。

何が面白いかという、答えが書いていないんですね。なので、自分がこうなんじゃないかという仮説をすごく立てやすいというのと、あと科学の歴史ということで、漫画が書かれていて、興味関心を引くという意味では、非常に面白いです。特に選んでいる科学者がマイナーな科学者が非常に多くて、こういう人たちが支えてきたんだと、広く伝わるかなと思いました。

ただ翻って、普通の人がこれでちゃんと授業ができるかとなると、やはり考えを入れ替えて、得意ではない子どもたちがちゃんと理由を理解できる。一つ一つ理解できるためには、やはり丁寧に基礎基本にのっとった教科書のほうがいいと思いました。特に電気は子どもたちがすごく悩むところなんだけれども、ここがすごく丁寧に書かれていて、これなら分からない子もちゃんと読めば分かると思いました。

なので、非常に口惜しいですが、新宿区の子どもたちのことを思うと、大日本図書がよろしいと思いました。

以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。

続いて羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 特に意見に変わりはありませんが、どちらも、意見が分かれるぐらいによさがあるんだろうと思います。

教科書自体、バランスが取れているのは当然として、大日本は分かりやすい配列あるいは説明になっているということ、それから、生活密着的、具体的な事柄が導入部等において使われていること、これは理科は冷静でなくてはいけないが、冷静でかつ身近感があるということ、そういう話題性や生活時間に即した事実がよく取り入れられていて、その論理性、つまり「なぜ」という答えについて関心を引き寄せていく集合があるんじゃないかと。

むしろ、理科の先生がどういうふうにつなげていけるか。授業でこういう部分が発揮されれば、僕は大日本のほうが非常にいい教科書であろうと思っております。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。



星野委員、お願いいたします。

○**星野委員** 前は東書を選ばせていただきました。もともと、どちらも大差はないと思っていたんですけども、練習問題の数などから、東書のほうがいいかと思いました。また、自分が読んでいて確かに読みやすかったと思いました。先ほど山下委員の御意見にもありましたが、僕も理系の人間なので、理系の人間にとっては何か楽しめる教科書だと。ただ、やはり理科が苦手な人のことを改めて考えまして、今回は大日本を選ばせていただきます。ただ、東書のQRコードの中身はとても面白いので、これは何となく捨てるのが難しいというか、いまだにちょっと後ろ髪を引かれております。結論としては、大日本です。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。

私も、新宿区の子どもたちにレベルが合っているというか、使いやすいという御意見もありますので、大日本にしたいと思います。

他に御意見、御質問がなければ、協議の内容を確認したいと思います。

理科については、これまでの協議・内容を踏まえた上で、皆様の総意として、大日本図書発行の教科用図書を採択の対象とする教科用図書とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**教育長** ありがとうございます。

では、そのようにさせていただきます。

次に、道徳について、改めて御意見、御質問がある方はお願いいたします。

いかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○**教育長** 御質問等がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、改めて、各委員の御意見を確認したいと思います。

それでは、今野委員からお願いできますでしょうか。

○**今野委員** 私は、前回、日文を推しました。この教科書がいいと思いましたのが、大きくは2点ありまして、前回は申し上げましたけれども、1点は教材のほかに「プラットフォーム」というページがありまして、例えばいじめに関してですと、いじめがどういう構造になっているとか、いじめをする背景とか心理はどうだとか、あるいは法令との関係はどうだとかということを総合的に理解させて、冷静に議論するような場を設けてあります。こういうのがいいと思いました。

併せて、SNSやネットでの発信についての問題など、新しいテーマについても記述がありますし、アンガーマネジメントということも出ていて、非常に優れた内容であると思いました。

もう一つは、いろいろ議論のありました別冊の道徳ノートです。教材に伴って、生徒たちはいろいろな思いを巡らして様々に感じたりすることができるのが道徳だと思いますけれども、いろいろな思いをそのときに言葉にして残しておくということが大切だと思うんですね。あれこれ考えながら、やっぱりそのままにしておくとうっかり忘れてしまう、あるいはそのときの思いが薄れてしまうというようなことがありますから、後で思い返すということ、それから、さらに深く考えるときの基点にもなりますし、そういう意味でとてもいいんじゃないかと。それから、教員にとっても、子どもたちを指導するときの一つの手がかりになるということで、仕組みとして、とてもいいと思ったからでした。

ただ、そのとき少し気になりましたのは、とてもいい仕組みではあるけれども、実際に学校現場で子どもたちがいろいろ記述をしたり考えたりするのに役に立っているのかどうか、あるいは先生方は十分使っていらっしゃるんだろうかということが、一番気になりました。審査の結果について、いろいろ話を聞きまして、調査委員会のほうでは、必ずしも評価が高くなかったわけですが、学校現場のほうでは、断トツに高い。あるいはそれを多分踏まえてでしょう、教科用図書審議会の意見でも第1にA評価というような形になっておりましたので、實際上、非常に使われているんじゃないかと、そういう判断だと思ったわけです。

ただ、調査委員会の方にお伺いをしたときに、調査委員会は専門の教員のベテランの先生方がなっていていらっしゃると思うんですが、その調査委員の先生方のほうでは、必ずしもそうではないという、ちょっと厳しい御意見が多かった、そういう印象を受けたんですけれども、ノート自体が不要である、あるいはないほうがよいという感じに受け取りましたけれども、かなり逆の厳しい評価もなされておりました。

そういうことから考えると、少なくとも学校現場全体で教員が一致して評価しているということでもないのかもしれないと思いました。そういうことも加味すると、前は日本文教出版と申しあげましたけれども、少し割り引いて考えなくてはいけないということを思い直したところでございます。

ということで、他の委員からは教出が優れているということでしたので、皆さんがそういう御判断であれば、委員会全体として教出を推薦することについて、私もやぶさかではなく、賛成しようという思いです。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私も前回、日文を選ばせていただきました。先ほど今野委員からも御意見がありましたとおり、この道徳ノートの評価が高いという前提の下で、判断させていただきました。そこで、改めて、これを自分で使ってみたんですね。そうすると、実はこのフォーマットが全部ほぼ同じで、特に一番下の振り返りのところは、これは要るのかなとか、結構これは使いにくいのではないかな、書く欄も本当は物によって違っているべきなんじゃないかなと、改めて思いました。

確かに、まだ若い先生方には、こういうものがあつたほうがいいのかもかもしれませんが、本来子どもたちの立場にすると、ちょっとこれは不要なのではないかという気がしました。ただ、このプラットフォームについては非常にいいと思っていて、特に、昨今問題になっているSNSや、アンガーマネジメントですね、このあたりはちゃんとされているので、非常によろしいと思いました。

また、ほかの方が推薦されていた教出を見ました。内容は、どの教科書もすばらしい中身ですので、これが際立ってという印象ではなく、どれもすばらしいという感想でした。

ただ、最後に書いている「学びの道しるべ」において、これを議題にして、多分、毎回話をしていくんだろうと思いました。間々に入っているこのいじめに向けてとかいろいろなテーマごとに、日文と同じような内容のことを全て書かれていましたので、こちらの教科書でも子どもたちにいい道徳教育ができると思いましたので、教育出版でいきたいというふうに思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 僕も教出を推しました。簡単に言うと、いわゆる評価を求める授業ではなくて、それぞれが自分の考え方をまとめるということが非常に重要な教科でありますから、全部が全部文章ではなく、教育出版は、例えば「歩きスマホ」は図表、「変わりゆく地球」、あるいは「ハゲワシ」は写真、それから「裁判員制度」は仕組みとか統計とかを扱って考える。

つまり、文章を読んで、その文章の表現の中から酌み取るというよりは、そういう実質を基にして個人の考え方をまとめていく、判断していく。この点はいい扱い方だと思っております。

ます。ほかにもありますが、取りあえず、その点は非常に突出しているのではないかと  
ことで、教出のままでいいと思っております。

○教育長 ありがとうございます。

星野委員、お願いいたします。

○星野委員 前は学研を推しました。どの教科書も大変いい内容で、甲乙つけ難い部分もあ  
ったんですけども、たまたまSNSのところが一番みんなに普及しているLINEを取り  
上げていたので、それがいいと思いました。ただ、後でお聞きしましたら、SNSについ  
ては別に授業があるというお話を聞きましたので、その点ではどこの教科書でも差がないと思  
いまして、もう一回読み返してみました。そうしますと、教出のほうが多少内容が分かりや  
すいのと、図や表などいろいろと使い分けて分かりやすくしてあるので、やっぱり教育出版  
のほうがいいかなと考え直しまして、教出にいたしました。

○教育長 ありがとうございます。

古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も前回同様、教出でよろしいかと思えます。

やっぱり道徳ノートの点等、ちょっと気になったところですけども、あとは前回もお話  
したとおり、道徳という科目を通じて本当に分かってもらいたいことが、いろいろな形で  
表されていて、子どもたちに伝わりやすいと思いました。

○教育長 私も、羽原委員がおっしゃったように、生の材料というか、ちゃんと統計資料等々  
から考えていくという、そのプロセスが大事だというふうに思いますので、そういうところ  
でうまく誘導していく、教育出版がよろしいかと思えます。

それでは、ほかに御意見がなければ、お諮りをいたします。

道徳については、これまでの協議内容を踏まえた上で、皆様の総意として教育出版発行の  
教科用図書を採択の対象となる教科用図書とするということで、よろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

続いて、書写について御質問等あれば、お願いいたします。

○山下委員 よろしいですか。私、中学での書写の授業についてはあまり明確に覚えてはいな  
いんですが、書道というか、文字を筆で書く授業がほとんどなんでしょうか。それとも、そ  
の他硬筆などもあるのでしょうか。カリグラフィー、つまり、文字をきれいにさせる手法で

すね。デザインとまではいきませんが。

○坂元教科用図書審議委員会委員 書写に関しては、今、おっしゃったように硬筆、それから毛筆等で分けて指導されるということになっております。

○教育長 硬筆もやるし、毛筆もやるということですね。

○教育指導課長 1点、捕捉をさせていただきます。ただ今、山下委員からご質問のありましたカリグラフィーについては、花文字のようなものを書くというレベルになってくると、範疇としては美術かなと思います。

○教育長 ほかに何か御質問等はございませんでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 他に御意見、御質問がなければ、これまでの協議を踏まえて、採択にふさわしい教科用図書について、改めて各委員の御意見を伺いたいと思います。

それでは、山下委員、お願いします。

○山下委員 私は、前回、教育出版を選ばせていただきました。それは先ほどの質問とも関連があるんですけれども、インターネットやスマートフォンで世の中が進んでいく中であって、書写という科目がどうあるべきかというところを一番考えているのが、この教育出版の教科書だろうと見ていました。

特に、最初にあるノートをどういうふうに書けばいいのかとか、これはほかの教科書にもありませんでしたし、横書きの書き方、これも教出の教科書にしか載っていなかったですし、後半にある書道が活躍する場のバリエーションも、圧倒的に教出のほうが多いと思って見ていました。

ただ、先ほどちょっと質問させていただいたんですが、では、教科としてそこを全くやらないのに、それが載っていてもどうなのかと思いました。これは例えば、先ほど、フォント、字形の問題は、デザイン性が高まってくると、これは美術の話でしょうということでした。ノートの取り方も書写でやるものではなく、各教科でやるものでしょうし、後ろに掲載のこのいろいろな書き方というものも、あえてこの書写で取り上げる必要があるかというところ、クエスチョンマークがつきます。

それはもう授業の持ち方次第なので、そこまで含めて授業をやるというのであれば、私はこの教科書しかないと思ったのですが、主に硬筆、毛筆、日本の書道を伝えていくという立ち位置で授業をされているというのであれば、非常に細かく書道について書かれている光村図書のほうが良いと思っています。

ですので、純粋に書道を学ぶという意味では、光村の教科書がよいかと思しますので、こちらの教科書を推したいと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 書写の授業数からすると、教出は少しボリュームが多すぎるという感じもしますし、それから、授業のおまけの部分と言っではいけないかもしれないが、参考資料的なものは光村のほうがいい。使いやすさが先生の間にもあるかなという印象で、引き続き光村を推したいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

星野委員、お願いいたします。

○星野委員 私も書写に関しましては、前回同様、光村図書を推したいと思います。

やっぱり分かりやすい内容ですし、先生も使い慣れているでしょう。そういう点で、やはり使い慣れたものの方がいいと思ひまして、光村図書にいたしました。

○教育長 ありがとうございます。

古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も結論としては、前回同様、光村です。

本当にどの教科書もとても使いやすく、自分も使ってみたいなと思ひました。しかし、最終的には今使っている、また、調査委員会、審議委員会、学校調査全て光村となっていたので、それでいいのではないかということです。

○教育長 ありがとうございます。

今野委員、お願いします。

○今野委員 前回は今回も光村図書という結論でございます。

内容的にどの教科書もそうは変わらないと思うんですけども、特に光村の場合には、行書についてまとまった練習ができる内容になっていて、とてもいいと思ひました。特にワープロの時代になってきますので、手書きというのはある意味基礎になると思ひましたし、それから、いろいろな手紙の書き方や入学願書、ポスター、年賀状、様々なものの記述の練習ができるということも、特にいいと思ひました。

ということで、光村です。

○教育長 ありがとうございます。

私も前回同様、学校調査等々含めて評価の高い光村にしたいと思っています。

それでは、ほかに御意見がなければ、お諮りをさせていただきます。

書写については、これまでの協議内容を踏まえた上で、皆様の総意として光村図書出版発行の教科用図書を採択の対象とする教科用図書とするということで、よろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 では、そのようにさせていただきます。

次に、社会（地理的分野）について御意見、御質問があれば、お願いいたします。

いかがでしょうか。

では、私からよろしいですか。

この間、SDGsがかなり話題になったと思いますけれども、帝国書院も見開きのところでSDGsは入っているわけですが、この帝国書院の教科書の中で、SDGsの取扱いというのはどのような形、特色として考えられるか、教えていただけますでしょうか。

○池田教科用図書審議委員会委員 帝国書院の地理の教科書、まず先日も御議論になっておりましたが、SDGsについてでございます。表紙の部分に「地域のよりよい発展をめざして」というところで、SDGs 17の目標についての記載がございます。

内容的な部分に関しましては、例えば181ページの右上のところに「公害のまちから生まれ変わった水俣市」ということで、右側にSDGsのマークがついております。例えば環境面に関しましては、このような形で記載がございます。また、他の教科書でも、例えば話題になりましたフェアトレードにつきましては89ページ、同様な形で右上のところに「未来に向けて」ということで、他の教科書でも話題になりましたけれども、フェアトレードの取組について記載がございます。また、こちらも先日の協議の中で話題になりましたけれども、57ページの「共生」という部分で、平和への道を探る朝鮮半島というところで、このような形で平和学習につながるような記載も、SDGsの関連では帝国書院で取り上げているところでございます。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに何か御質問等ございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長 御意見、御質問等がなければ、採択にふさわしい教科用図書について、改めて各委員の御意見を確認したいと思います。

それでは、羽原委員からお願いいたします。

○羽原委員 僕は少数派ながら、東書を改めて推したいと思います。少し長くなりますが、理由を述べたいと思います。

僕も何回か教科書の採択をしている中で、少数意見になることも何回もあって、結局採決をして、多数決で決めてしまうと保護者の立場によってはいろいろあるし、なるべくなら協議で一本化したいという思いがあります。もし、今日、意見の分かれる場合には、29日の予備日を使って、教育委員の皆さんには、もう一度教科書をぜひ見ていただきたいという視点から、あえて今日は、僕なりの思いを発言したいと思っております。

前提として地理と地図について、同じジャンルのものなので、一緒に話をします。というのは、地理と地図は、なるべくなら一体のほうがいい。特に一つのコンセプトに基づいて作っている節が東書にはあるので、ぜひ教科を超えて一緒に話させていただきたいと思います。

まず第1に、地理については、帝国は調査委員会でA評価が4つ、学校調査で9つ、東書は調査委員会でA評価が3つ、B評価が1つ、それから学校調査で5つと僅差であること。教科用図書審議委員会のほうも、総合ではどちらもA評価であること。地図についても、ほぼ同じように、レベルが近接していることを示していると思います。

調査委員会がB評価とする地図も、内容という点についてB評価で、ほかは皆A評価です。では、内容はどうかという印象があります。

第2に、中教審の答申では、今回の改訂について、世界諸地域学習における地球的課題の視点の導入をうたっており、中教審は、持続可能な社会づくりの観点から、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質能力を育てていくことが求められる、としています。これは中学校学習指導要領の解説にも示されていますし、このことは、事務局から頂いた資料にもそっくり出ております。

また、学校教育法の義務教育の中には、進んで外国文化の理解を通じて他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこととして、その重要性はますます高まっている、というコメントをつけてもおります。

さらに、グローバル化が引き続き進展し、また、環境問題等の地球的課題が一層深刻化する現状においては、世界の諸地域の多様性に関する基礎的・基本的な知識を身につける必要性を指摘しています。

ちなみに、地図についても触れておこなれば、地図についての学習指導要領解説には、地域の変容が激しくなっている現代では、新旧の地図を比較し関連づける学習は、地域の変哲



の軌跡を捉え、地域の課題や将来像などについて考える上でも大切である、という言及があります。

帝国でもこの視点は取り入れられていますが、このような視点を生かして具体的に教室でどう展開するか、この点はおのずからレベルの違いが見えてきていると思っております。

なお、ただ今の中教審なり指導要領の解説なりというのは、僕がわざわざ調べたことではなく、事務局の用意してくれた資料にあることをそっくりそのまま読んだままであります。

第3に、これに関連して教科用図書審議委員会の調査報告では、東京書籍について、国連のSDGsや国際社会で起こっている様々な問題の資料ページが設定され、国際社会における今日的課題について考え、調査することができる、というふうに、SDGsについての評価を教科用図書審議委員会のほうでは触れています。

調査委員会の評価は、東書は内容の点でB評価としています。ただ、少し視野が大きい検討ではないような印象を持っておりまして、例えば新宿区に隣接する練馬区が取り上げられているというような点、これは僕も地図で調べたら、この前は隣接しているというふうに言ったんですが、隣接はしていません。わずかにかすっているかどうかというくらいでして、そのこと自体はいいのですが、身近な点に触れているとしたいんでしょうけれども、ちょっと大きな視点から見ると、どうかなという印象です。

第4に、東書は英語に至るまでSDGs、持続可能な社会をどのように目指すかという地球規模の問題点に迫ろうとしている編集をしている、これを各教科で筋として取り入れているような印象があります。教科用図書審議委員会、調査委員会とも、その点を十分見てもらったかどうか、教科用図書審議委員会はちょっと触れておりますが、調査委員会はほとんど触れていません。教科書自体に振り仮名があるように、SDGs（エスディーゼズ）であって、SDGS（エスディージーエス）ではない。調査委員会はそのような発言がありましたが、そうではない。SDGsと教科書に振り仮名まで振ってあるという事実は見逃してはいけないと思います。

第5に、国連が5年前に提起した実現可能な開発目標、つまりSDGsは17項目のグローバル目標と169の達成基準を示したもので、そこに現在の地球、世界が抱える問題点を洗い出していて、これからの時代に生きていく若い人たちが大きく心得ておくべき課題を取り上げています。

教科書のための目標の提示ではなく、国連を褒めるわけでもないが、よく整理されていて、しかもどのように打開していったらいいかという視点を明らかにしていると思います。

国連の立場は世界のアンバランスを極力改めていきたいというものであって、いわゆる変更ではありません。むしろ築いていくべき社会、どのような社会にしていくべく努力を払うか、そうした視野の広さが言われています。だからこそ、若い時期にこういう視点を学ぶ、それに値すると思っております。

特に島国の日本人には、このような整理された視点を学ぶことによって、国際化、グローバルな時代に向かおうとする教育の課題に、とても望ましい指標だと言えらると思っております。

地球上にある課題が何であるか、何となくは気づいている問題を整理して、頭に入れていくことは、深い学びということにつながると思います。

第6に、教科書の判定は、我々成人が面白いとかという視点ではなく、成長の取っかかりをつかみつつある子どもたちが将来に向けてどのような問題意識を持つか、そのためにどう役立つ教科書であるかという立場から、見たほうが良いと思っております。

知識は学ぶ前提としては大切ですが、それをもう一歩深めて、考える授業にするほうがより望ましいと思っております。

第7に、地図については、教科用図書審議委員会報告を見ると、帝国は写真や図版のサイズや量が適量で、学習を深めやすい図版が多く、イラストも豊富としている。一方、東書は、資料、写真、データが適切に配置され、テーマや主題と関連した写真を適切に使用している、としているように、帝国は数量的な評価、東書は内容的な評価と言えるように思いました。

先日の会議のときに、九州地方を取り上げて、具体的な問題について扱っているテーマあるいは図表、写真、それについてその地域によく根差している教科書はどちらかということ具体的に指摘しましたが、教科用図書審議委員会もまた同じような評価を下しているように思います。あえて言うならば、東書も大きい判の教科書にすれば、データの量は増えるわけです。世相や課題など時宜を得た狙いにおいて、既に優れた内容を持つことから、さらに的確な内容が提供できるようになる。これは、東書がもし大きい判にすれば、ということがあります。

第8に、付言すれば、地理の教科書と地図は同じ編集方針で作成されており、授業においてリンクして使えるほうが望ましいと思っております。時代の変化が極めて大きく、また、世界各地で様々な問題や衝突が起き、あるいは物や人間の交流が深まり広がる中で、教育はせめてその端緒に関心を持てるような授業を提供しなければならないと思っております。4年間は非常に長い期間で、育つ期間でもあります。子どもの芽を広げるような授業であってほ

しいと思っております。

それから、少し具体的なことを言いますと、帝国も東書も世界の環境問題、あるいは環境と資源とエネルギーとを一緒に語っている。しかし、これは東書も不十分だと僕は思いますが、二酸化炭素が増大することによって、地球の温暖化が広がっている。海面の上昇で土地がなくなろうとする島国もある。気温の上昇は生活様式も変えるし、農業、漁業等の産業生産に関する業態にも、大きな変化がもう見えている。あるいは海上の温度の上昇もある。これは水産資源への影響がありますが。あるいは一方で砂漠化も増進している問題がある。あるいは熱帯雨林が減っている、これは人間の伐採という問題もありますし、あるいは食料難の地域が出ている。こういう、いわゆる環境問題というか、地球が抱えている今の問題という視点をむしろ広げたほうがいい。環境問題、環境資源、エネルギーと、簡略化してまとめられないような授業のほうが望ましいのではないかと思います。

それから、統計については、これは似たようなものがありますが、確かに先日御指摘のあった統計、例えば東書は、人口、面積、密度を2017年の記録を載せて、帝国のほうは翌2018年の新しいデータを入れている、こういうところは東書も努力すべきだという印象です。

それから、東書のいいところと言えば、この統計についてですが、最後の図表、各国の表の中で日本との貿易量、帝国は貿易額の出入の数字を挙げているけれども、日本との貿易量のほうが親しみやすいと思いました。それから、国内の総生産の量についても、東書はいいと思いました。

あとは、宗教とか言語とか、国民総所得とか、ほとんど共通でありますから、そんなに違いはないと思っております。

さらに言いますと、東書のほうが、どちらかといえば日本中心、帝国書院のほうが世界と日本という視点が強い。この点は帝国も非常にいいと思っております。特に、世界・日本の人口というのが帝国にあります。この内容を比較してみると、やはり帝国は人口密度、高齢人口の割合や外国人の人口を取り上げているが、東書は都市への人口集中の問題点、あるいは合計特殊出生率というような人口問題の触れ方です。あるいは過疎人口と高齢人口の推移といったような、アップトゥデートな捉え方が平板でなく提供されているというような印象もありました。

まだ、ほかにもありますが、たくさんしゃべってますから、ここまでにします。少数意見ではありましたが、もし分かれるようでしたら、ぜひ次回までにもう一回、教科書をよく見る時間を取っていただいて、論議を持ち越していただきたいと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、星野委員、お願いします。

○星野委員 地理ですけれども、私は前回も帝国でした。今回も帝国でいきたいと思います。

理由としましては、確かに東京書籍の場合はいきなり最初に世界遺産の絵が入ったりとか、取っかかりは確かにいいかなと思いましたが、確かに新しい内容のことも書いてありますけれども、それを調査委員会なり審議委員会なりであまり評価をしてないということは、授業では使わないのではないかという考えがありまして、であれば、現場の評価の高い帝国でいいのではないかと判断いたしました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も結論としては、地図と地理とはやっぱり同じ教科書がいいということ踏まえた上でですけれども、前回同様、帝国を推したいと思います。

前回もお話ししたんですけれども、昔と比べると帝国が上という感覚はなくなってきているということはあると思います。東書もかなり面白く読ませていただいたんですけれども、でもやっぱり最終的に調査委員会も学校調査も審議委員会も全て、地図に関しては帝国が強いのかなと。地理に関しても、やっぱり帝国を一番に推しているところを、今、教育委員会、私たちがひっくり返せるだけの自信があるかということ、やっぱりそこはまだ正直なところ、ないところなんです。もう一度検討の時間をいただくということに対しては、やぶさかではないですけれども、今の段階では帝国でよろしいのではないかと考えています。

○教育長 今野委員、お願いいたします。

○今野委員 前回も帝国を推しましたし、今回も帝国を推したいと思います。

帝国も東書も内容的には評価の数値が出ているように、それぞれいい教科書だと思いましたが、私としては、前回も触れましたが、帝国には「技能をみがく」というコーナーが連続してありまして、地図の索引だとか略図の書き方とか写真の読み取り方とか、非常に基礎的な技術・技能を身につけさせるものがあって、地理の学習の基礎力をしっかりつけてくれるような内容になっていると思えました。

「技能をみがく」の中には、ハザードマップの読み取り方というようなところまで出てまして、かなり幅広く今日的な課題対応に役立つものであると改めて思いました。

それから、地理プラスなどのコラムも資料もとても豊富で、学習のいざないになると思います。

それから、全体的に世界に対する視野というのが非常に強くて、その部分の記述もそうですけれども、いろいろなところでそういう世界への視野も身につけさせるような内容、これはほかの教科書も同じかもしれませんが、世界から始まって、最後、地域課題の解決に向けてということで、この一貫した流れも、とても分かりやすいものになっていると思いました。

ということで、帝国でございます。

○教育長 ありがとうございます。

山下委員、お願いいたします。

○山下委員 今回、非常に迷いました。実際、地理をじっくり読んでみましたが、まず、昔、編集をやっていたので、編集の観点から見ると、デザイン的には、東京書籍は細かいところに非常に気を使っています。

まず気がついたのは、ルビが全部グレースケールで書かれていて、読むときに邪魔にならないんですね。すごく細かい配慮だと思いました。

あと、よく出てくる雨温図についても、これは平均気温が横線が入っていて、温度の高い低いという比較がすごくしやすいんですね。そういう細やかなデザインというのは、デザインをしている人が多分いろいろ話をしながら作っていったという状況が、すごく見えてきます。

あと、私は目が悪いので、最初、帝国のものを見てみると、きれいでいいと思ったんですけども、ずっと見てみると、結構目が疲れてきてしまうんですね。これがホワイトボードに映したときにどういうふうに見えるのかというのが、私の中で分からないところでした。

では、内容はどうかというと、私も長くなってしまいうんですけども、私、地理はすごく苦手でした。さきほどの理科と逆で、内容については帝国書院のほうがかっちり書いていると思います。ただ、ちょっと難しいんじゃないかなとも思います。理科と全く逆の反応ですけれども、地理が好きな人を見ると、すごく細かく書かれていて、いい教科書だと思うんですけども、社会科が苦手な子どもたちにとっては、ちょっと過剰な気がしています。

北アメリカを中心に見ていたんですけども、重要語句がたくさん出てきて非常に量が多いなど、活字の量もすごく多いなと感じました。

あと、見ていて気がついたのが、帝国書院は、現在の地理の状況はどうなっているかと、すごく深く書いていて非常に分かりやすいです。逆に、東京書籍は、時代の流れというのでしょうか、昔がこうで、今こうなっていますよという書き方をしているので、読み物としては非常に読みやすいですね。どちらを取るか、私は非常に迷いました。

地図との絡みも出てくるのですが、今回は東京書籍を推させていただきます。次までにもう一回考えて判断したいと思います。地理が苦手な子どもたちにどうするかという観点で、もう一回見させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、私ですが、まずは結論的に言うと、帝国を推したいと思います。

私も細かくなりますけれども、帝国書院の巻頭の6ページというところを開けていただきますと、ここに書いてあるコラム、特設ページ等々についてですけれども、「未来に向けて」と書いてあるのが25のテーマで、SDGsに関わるテーマをここでコラムとして取り上げていて、その下にも地域ごとの内容が出ている。これが、非常に整理されていて分かりやすいということ。また、説明も同じぐらいのページ数なんですけれども、帝国書院のほうが、説明の文言が圧倒的に多いんですよ。

例えば、アマゾンの焼畑農業のところだと、焼畑農業を続けることで森林を守ってきました、というのが東京書籍の書き方なんですけれども、帝国書院は、その焼畑農業というものが立ち行かなくなってきた、観光に、というようなところまでちゃんと書いてあるんですよ。ですから、説明の仕方が帝国書院のほうが丁寧なんですよね。そこがやっぱり違うかなと。

他にも、東書は「バイオエタノール」と一言で終わっているのが、帝国では、ブラジルではサトウキビを原料とするバイオ燃料で走る自動車云々と、コラムのところで説明がしてあって、説明が充実しています。いずれにしても、丁寧に説明してある帝国書院のほうが、子どもたちは学びやすいと思って、私は帝国書院とさせていただきます。

それでは、ほかに御意見がなければ、協議の内容を確認させていただきます。

社会（地理的分野）につきましては、帝国書院発行の教科用図書と、東京書籍発行の教科用図書2種まで絞り込みしましたが、1種の絞り込みには、なお協議を要するところかと思えます。

つきましては、7月29日の臨時会において、改めて1種に絞り込みたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続いて、地図の分野についてお諮りをいたします。

御質問等あれば、お願いいたします。

いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** 御意見、御質問がなければ、改めて各委員の御意見を確認したいと思います。

星野委員、よろしくお願いいたします。

○**星野委員** 地図に関しましても、帝国を支持したいと思います。

社会（地理的分野）で帝国を推したというのが一つの理由になりますのと、持ち運びという点でどうかは分からないんですけども、やはり大きいほうが絶対的に見やすいということがあります。

また、資料の内容に関しては、確かに東書のほうは新しいというか、珍しい内容が入っているんですけども、先ほど申しましたように、教える立場としてはあまり必要でない情報なのかなど。必要であれば、もうちょっと評価が高いと思うんですけども、そういう受け止めですので、帝国にいたしました。

○**教育長** ありがとうございます。

古笛委員、お願いいたします。

○**古笛委員** 私も、地図は帝国です。先ほど、地理的分野でお話しさせていただいたんですけども、地図が帝国だから、地理も帝国というところは大きいです。地図に関しては、いろいろな意見はあるかと思うんですけども、やっぱりたくさんの情報が掲載されているというところが、大きく意味があると思うし、調査委員会、学校調査、教科用図書審議委員会、それぞれそこをすごく評価していることから、地図についても帝国でよろしいかと思いました。

○**教育長** ありがとうございます。

それでは今野委員、お願いいたします。

○**今野委員** 私も、今回も帝国がいいと思います。学校現場含めて、調査委員会等々の評価が非常に高かったということと、それから、やはり判型が大きいので、とても学習しやすい。

資料も豊富で充実していると思いましたので、改めまして、帝国を推したいと思います。

○**教育長** ありがとうございます。

山下委員、お願いいたします。

○**今野委員** 前回、東京書籍を選ばせていただいていたのですが、理由はそのときに述べたんですが、それに追加してですけども、やはり新しいものは不要かという、私としてはすごく

疑問があつて、地理の教科書もそうだったんですけれども、基本はどの教科書もどの地図もすごく押さえられていて、そのプラスアルファの部分で、次にどういうことを伝えていこうとしているのか、というところで検討している気がしますので。

地図帳の場合はある程度量がないと、例えばこの資料を調べるというときに、その資料がないという段階で、もうその地図帳としての役割はなくなってしまう。よって、資料の量は多いほうが確かにいいと思っています。

ただ、教科書は東京書籍を選んでいきますので、そことの連携というところ、あと、新しいものという観点でいうと、例えばオリンピックの競技場が載っていたりとか、新しいものを取り入れるのに、積極的なところを非常に評価していきたいですし、次の世代を担う子どもたちがそういうものを見て、さらにその次の世代を担ってほしいと思いますので、取りあえず教科書とのマッチングというところで、東京書籍を推させていただきます。

以上です。

○教育長 羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 先ほど申したので、事情は先ほどのとおりで、東書であります。

先ほどの話で調査委員会についての検討ぶり、つまりSDGSと言ったり、練馬区が隣接しているとか、大きい視点の論議が交わされていたのかどうか分からないと。その点で僕は調査委員会のこの評価数値自体に疑問があります。この時代、グローバル化する、国際化する、それに適応する子どもたちを育てたいという教育の理念からすると、ちょっと僕は調査委員会の報告書などの表記で、それをそのまま鵜呑みにして権威に頼る、そういう気持ちはどうも出にくいですね。どの教科書がどうして必要なのか、今、子どもたちに何が求められるかということからすると、4年間続けていくには、この際、地球上の問題を先取りにするような視点を基本的に持ったほうがいいということです。

それから、どの地域がどうなっているかという、表面的なことにとどまらないで、その写真とか図表とかテーマの持ち方とかが将来につながるような視点を持っているかどうか。単に観光旅行に行くような地図の感覚ではなく、将来を展望する上で、この教科書の、あるいはこの地図でどういうふうに判断ができるかという教育内容であったほうが望ましいという意味で、僕は先ほどと同じように地理も地図も東京書籍が優れていると考えるところであります。

○教育長 ありがとうございます。

私は帝国書院を地図として推したいと思います。



やっぱり版の大きさのせいと言っただけけれども、例えば日本の地域ごとの資料1というふうにまとめているところですけども、基本的には自然環境があつて、降水量があつて、人口分布があつて、農業があつて、工業と交通があるというところは、ずっと統一してできているんですね。どの地域でも同じ形で出ているんです。

東書も基本的なところは同じように押さえているんですが、3点ぐらいになってしまうんですね。だから、そういう意味では、レイアウト上の制約という話もあつて、子どもたちがいろいろな地域、それぞれ自分の好きな地域に関心を持ったとき、今住んでいる東京と見比べてどうなのかという話になったときに、非常に使いやすいのかなと思います。資料点数がやはりちょっと差があるなという感じで、帝国書院を推したいと思います。

それでは、他に御意見がなければ、お諮りしたいと思います。

地図につきましては、帝国書院発行の教科用図書と、東京書籍発行の教科用図書の2種まで絞り込みを行ったところですけども、1種への絞り込みには、なお協議を要するところかと思ひます。

したがいまして、7月29日の臨時会において、改めて1種に絞り込みたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、本日絞り込みを行った教科用図書については、議案として取りまとめて、8月7日の第8回定例会で提案をさせていただきます。それまでに、7月29日にもう一度協議を進めたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

そのような形で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めさせていただきます。

以上で本日の協議は終了いたします。事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございませぬ。

---

## ◎ 閉 会

○教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

ありがとうございました。

---

午後 2時55分閉会